

顕出血，潜出血を問わず消化管出血が認められた場合，まず上部消化管，次いで大腸検査が行われ，共に異常がなければ小腸の検査に移るというのが日常の診療であろう。この小腸検査の際にはざっと小腸を診るだけではだめである。圧迫を加えた丁寧な X 線造影，またはゾンデを使った小腸造影を行ってはいじめて，責任ある小腸検査となる。

丸山が序説で「小腸の診断においては，臨床的な思考と意志決定という段階を経て，実際上の診断的検索へと移ってゆくプロセスが，他の消化管よりも一層，重要視される」と述べているように，小腸の器質的な疾患の有無を診断するには，種々の画像診断の役割を熟知し，実際の画像を目に焼き付けておく必要がある。今号の企画には，

診断的検索へのプロセスに必要な知識と実際の画像が掲載されている。種々の小腸疾患と出血との関係，経口法やゾンデ法による小腸造影像，血管造影，^{99m}Tc や赤血球をラベリングしたシンチグラフィなどの像が示された。一方，疾患も blind-loop syndrome, 虚血性小腸炎，悪性リンパ腫，薬剤性小腸潰瘍，Meckel 憩室，肺癌の小腸転移，von Recklinghausen 病，脂肪腫，平滑筋腫，Schönlein-Henoch 紫斑病など多岐にわたる画像が載っている。

本号が日常の診療の場における臨床的な思考とその意志決定に役立ち，更に本誌の特徴である客観性に富んだ画像診断の進歩に役立つことを願っている。

胃と腸

8月号（第27巻・第8号）予告

発売予定 8月25日
定価 1,957円(税込)

主題／表面型大腸腫瘍の臨床診断の諸問題

序 説	早期胃がん検診協会	白 壁 彦 夫
主 題	平坦・陥凹型大腸上皮性腫瘍の X 線診断—内視鏡像および肉眼型との対比	山田日赤・消化 平川 雅彦・他
	微小表面型大腸腫瘍の X 線診断—その基礎と診断の解析	早期胃がん検診協会 渡 二郎・他
	表面型大腸腫瘍内視鏡診断の問題点	大阪医大・2内 平田 一郎・他
	内視鏡所見と実体顕微鏡所見からみた陥凹型早期大腸癌の診断	久留米大・2内 豊永 純・他
	表面型大腸腫瘍の診断—X 線と内視鏡の対比を中心に	仙台市医療センター 安藤 正夫・他
	X 線・内視鏡所見からみた表面型大腸腫瘍肉眼分類の問題点	福岡大筑紫病院・内 津田 純郎・他
主題研究	陥凹型大腸癌の微細表面構造	秋田日赤・外 工藤 進英・他
	大腸の腺腫および早期癌の実体顕微鏡所見：肉眼形態・病理所見との対比	九大・2内 多田 修治・他
今月の症例	胃体部後壁の IIc+III 型早期胃癌の 1 例	福井県立病院・外 細川 治・他
	腸子宮内膜症の 1 例	国立がんセンター・内 白尾 国昭・他

胃と腸（第27巻 第7号）

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1992年7月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 1,957円(本体 1,900円) (配送料 81円)

年きめ予約購読料 22,320円(本体 21,670円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1992. Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 無断で複写・複製・転載すると，著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 渡邊・窪田・江口・長谷川